

## 報告 (原著)

知的障害と自閉スペクトラム症をもつ子どもの  
思春期の性に関する保護者の経験の文献レビュー加藤 真由<sup>1,2)</sup>, 道信 良子<sup>3)</sup>, 川村みどり<sup>4)</sup>

## 〔論文要旨〕

障害のある子どもの思春期の性は、小児保健における重要な健康課題である。保護者の養育経験を理解し、適切な支援を提供することは、小児保健の専門家にとって不可欠である。知的障害 (ID) および自閉スペクトラム症 (ASD) をもつ子どもの思春期の性に関する保護者の経験を明らかにし、養育支援の示唆を得ることを目的とした。文献検索サービス CiNii, 医学中央雑誌, PubMed, Web of Science, CINAHL with Full Text を用いて対象論文を選定しナラティブレビューを行った。4つの論文を選定し、「性教育」, 「プライバシーと社会規範」, 「性的虐待」の3つの主要なテーマを抽出した。経験の個別性が重視され、保護者は個々のニーズに見合った支援を求めている。また、子どもが思春期に順応するにつれて保護者は子育ての不安を軽減できており、子どもの自立心を育むのに役立つ可能性を見出した。すべての子どもの養育に適用できる保護者への支援は見出しにくく、子どもの成長発達に伴う保護者の養育経験の変化もある。今後、さらなる調査研究が必要である。

Key words : 知的障害, 自閉スペクトラム症, 思春期, 性, 保護者

## I. 目 的

自閉スペクトラム症 (autism spectrum disorders : 以下 ASD) は先天的な神経発達症のひとつであり、周りの人との社会的相互作用やコミュニケーションの障害、自身の興味や行動における強いこだわりがあり、感覚の過敏さなどの身体的にも特徴的な認知を伴う<sup>1,2)</sup>。ASD の知的機能は多様であり<sup>3)</sup>、ASD をもつ人の 40% 程度に、知的障害 (intellectual disability : 以下 ID) が併存している<sup>4~6)</sup>。ASD と ID のいずれかのみ障害をもつ人よりも、両方の障害をもつ人には、より個性に合わせた対応が求められる<sup>7)</sup>。

上記に述べたような特徴をもつ子どもを育てるにあ

たり、周囲の家族、特に保護者への支援が重要である。本邦では、ID と ASD をもつ子どもは、乳幼児期に診断を受けることが多く、診断を契機として、今後の治療や療育方針が決定される場合が多い。そのため、乳幼児期には保護者の障害理解と養育支援を促す支援が重要である。学童期においては、保護者は、子どもの個性に応じた養育環境の決定に加え、周囲の人の理解や受容、学校生活への適応、子どもの交友関係などにもストレスを感じる事が先行研究で明らかになっている<sup>8)</sup>。

思春期には、同世代の子どもたちと親密な関係を希求し、性的な目覚めもあるため、恋愛関係への欲求をコントロールする必要がある。思春期や青年期は、対

A Narrative Review of Parental Experiences with Sexuality in Adolescents with Intellectual Disabilities and Autism Spectrum Disorders

Mayu Kato, Ryoko Michinobu, Midori Kawamura

1) 福井大学教育学部附属特別支援学校 (養護教諭)

2) 福井県立大学健康生活科学研究科 (大学院生)

3) 福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科 (研究職/教授)

4) 福井県立大学看護福祉学部看護学科 (研究職/教授)

[jch-23-057]

受付 24. 2. 3

採用 24. 9.14

人相互作用の微妙なルールの理解や、他者に共感する能力がとりわけ重要な時期である<sup>9)</sup>が、それらを苦手とする ID と ASD をもつ子どもには、性的な問題が顕在化しやすいと言われている<sup>10)</sup>。これらの知見により、ライフステージごとの課題に応じた保護者への支援が重要であることが示唆される。

近年の研究においては、ASD をもつ人も、性的に親密な関係を望み、性的な欲求もあることが明らかになり<sup>11, 12)</sup>、セクシュアリティは、ASD をもつ人の生活の重要な側面であることを示唆する知見が得られている<sup>13)</sup>。一方で、保護者や家族は、我が子の性的な欲求や興味関心、性的行動に戸惑いや不安を覚え、将来の生活に不安を感じやすいことが先行研究で示されている<sup>8, 14~17)</sup>。

ID と ASD をもつ若者の性的行動やセクシュアリティに伴う家族への支援に関して、海外では、性と生殖に関する行政サービスや相談機関の利用状況<sup>18)</sup>、家庭内でのセクシュアリティに関するコミュニケーション<sup>19, 20)</sup>、特定の文化圏における子どもの性的行動に対する保護者の心理的苦痛<sup>21)</sup>などの研究がなされている。本邦では、ASD をもつ子どもの性教育に関する保護者のニーズの調査研究<sup>22)</sup>、ASD を含む発達障害児への学校や福祉の場での性教育プログラムの開発と実践<sup>23, 24)</sup>、性的逸脱行動に関する犯罪の個別の介入研究<sup>25)</sup>などが行われ、障害の特性に合わせた性教育の指針<sup>26, 27)</sup>なども公的機関から示されている。

このように、海外や本邦においても、ASD をもつ人および子どもの性とセクシュアリティに関する問題は多岐にわたっていることが明らかである。そのなかで、保護者ないし養育者が、ID と ASD を併せもつ子どもの性的な行動やセクシュアリティをどのように理解し、対応してきたのかということを検討した研究は限られている。障害のある子どもの性の健康や福祉の充実、子どもの生涯にわたるウェルビーイングにおいても、保護者の養育経験を理解し、障害のある子どもと家族に対する適切な支援を提供することは、小児保健の専門家にとって不可欠である。

そこで、本稿では、ID と ASD をもつ子どもの思春期の性的行動とセクシュアリティに関する保護者の養育経験について、国内・海外の文献を質的にレビューし、そこから浮かび上がるテーマにどのような特徴があるのかを明らかにする。

## II. 対象と方法

### 1. 研究デザイン

本研究の研究デザインは、質的レビューのひとつである、ナラティブレビューである。ナラティブレビューは、系統的レビューのなかでも、焦点化された、特定のトピックに関する幅広い視点を得るのに役立つ方法と言われている<sup>28, 29)</sup>。ID と ASD をもつ子どもの、思春期の性についての保護者の養育経験という特定のトピックに焦点を当てるため、主著者の加藤と共同著者の道信、川村が協議の上、ナラティブレビューが適していると判断した。

### 2. 用語の定義

思春期とは、二次性徴が出現し始めてから性成熟までの時期である約 10 歳から 18 歳までとする、世界保健機関（World Health Organization：以下 WHO）の定義を採用した<sup>30)</sup>。

人間の性、あるいは、セクシュアリティとは、「生涯を通じて人間の性のあり方全般を示す」とする、WHO の定義を用いた<sup>31)</sup>。セックス（生物学的性）、ジェンダー・アイデンティティ（性自認）とジェンダー・ロール（性的役割）、性的指向、エロティシズム、親密さ、生殖がセクシュアリティに含まれる。

性的行動とは、人間の場合、個人が生殖や性的快楽を目的として行う行為や相互作用を示す。ASD をもつ人の思春期の性的行動のうち、社会的に不適切なものを、早川の分類<sup>15)</sup>を参考に、公共場面での自慰行為や過剰な自慰行為、一般的でない物を使用しての自慰行為、不適切な性愛的表現、人前での脱衣、パラフィリア的行動（小児性愛、窃視、性器の露出、フェティシズム、サディズムやマゾヒズム等）とした。

### 3. 対象文献の抽出

日本の文献検索には医学中央雑誌 web 版（以下、医中誌）、CiNii を使用し、海外の文献検索には PubMed, Web of Science, CINAHL with Full Text を使用した。検索対象とした範囲はデータベースの文献保管の開始時点から 2023 年 11 月 30 日までの期間とし、2023 年 12 月 2 日に検索を行った。検索は、主著者の加藤が担当し、スクリーニングについては、全員で協議しながら実施した。

分析対象とする文献の選定基準は、一次研究を含む

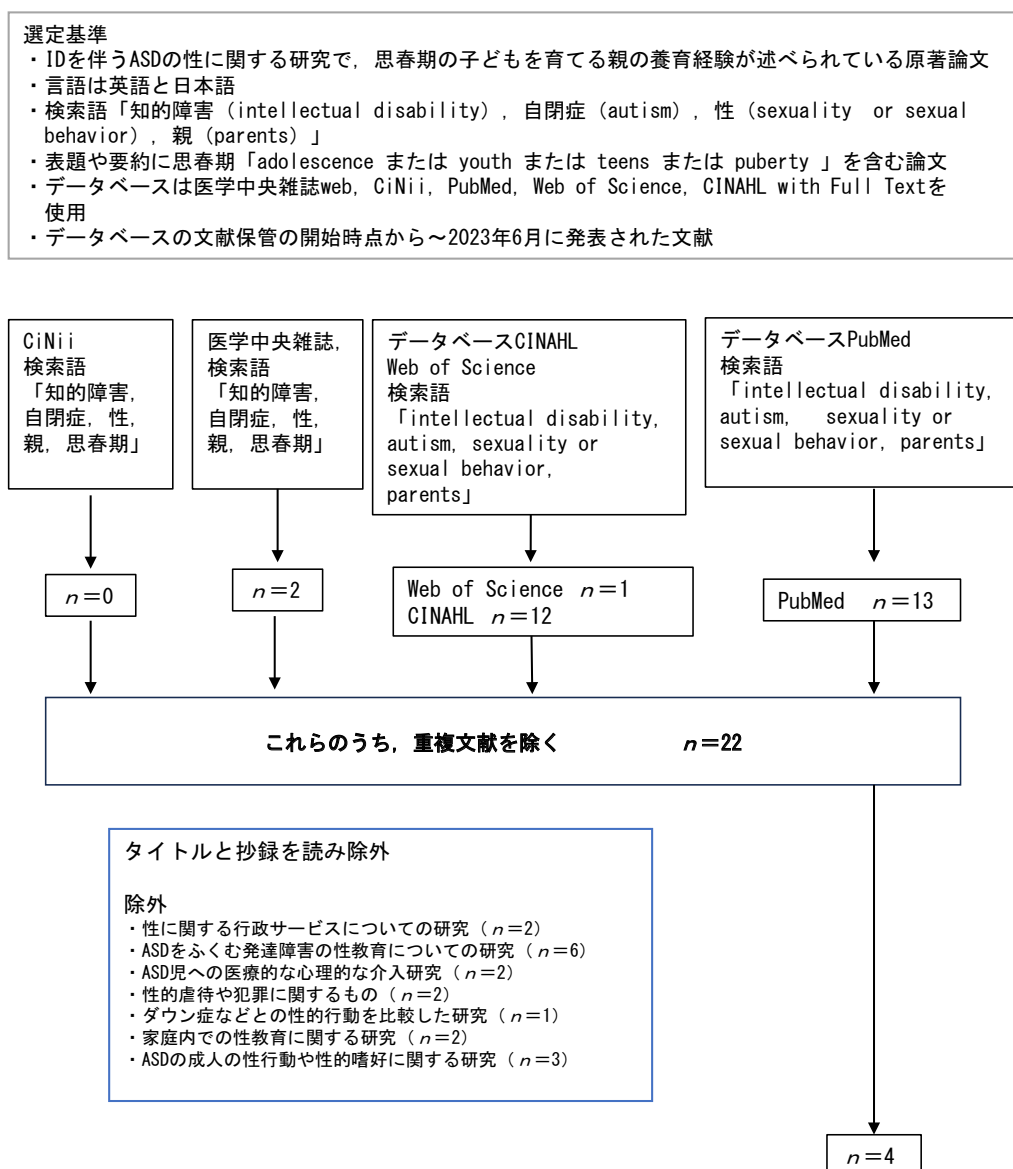


図1 IDとASDをもつ思春期の子どものセクシュアリティに関する保護者の経験を記述している論文を抽出したフローチャート

もので、IDとASDをもつ子どもの性および性的行動に関するものであり、保護者の経験を記述している論文とした。子どもの対象年齢は10歳から18歳の思春期とした。なお、19歳以上の子どもをもつ保護者の経験であっても、子どもが10歳から18歳当時の保護者の経験を抽出しているものについては、対象に含めた。抄録のみや研究方法が詳細に説明されていない場合は、研究総括の加藤、共同著者の道信、川村の合意の上、対象から外した。

検索語は、知的障害 (intellectual disability), 自閉スペクトラム症 (autism or ASD or autism spectrum disorders), 保護者 (parents or caregiver or mother or father), 性 (sexuality or sexual behavior) とし

た。国内の文献は医中誌において2件、海外の文献はPubMedにおいては13件、Web of Scienceにおいては1件、CINAHLにおいては12件の論文が選定され、重複を除き22件の論文を選定した。

そこから表題、要約、本文から思春期 (adolescence または youth または teens または puberty) を扱っているものを選定し、最終的に前述の選定基準を含む対象論文4件<sup>32-35)</sup>を抽出した (図1)。

#### 4. 対象文献の検討方法

研究対象者の背景は、①子どもの障害、②研究対象者の人数と続柄、(記載がある場合は) 年代、③子どもの年齢と性別、④研究へのリクルートの経路を取り

上げた。研究方法は、①研究デザイン、②データの収集方法、③分析の焦点を把握した。保護者の経験の概要は、①各経験の名称と主な内容、②経験に影響を与える要因を取り上げた（表 1）。

研究の質と根拠の評価には、Critical Appraisal Skills Program (CASP) チェックリスト<sup>36)</sup>を使用した。

### Ⅲ. 結 果

#### 1. 対象論文の概要

4 本の論文（本邦の論文が 2 件、イギリスの論文が 2 件）は、いずれも 2011 年以降に刊行されたものであった。研究の方法論としては、質的研究が 2 件、質的研究と量的研究の混合法が 1 件、量的研究が 1 件であった。研究対象者の 9 割以上が母親であり、養育している子どもの年代は、9 歳から 40 歳と幅があった。対象論文の研究目的、研究対象者、研究方法、保護者の経験の概要を、発行年順に表 1 にまとめた。以下のレビュー結果においては、子どもの思春期のセクシュアリティについての養育経験の概要を説明する。

#### 2. 保護者の経験の概要

養育経験の概要は、それぞれの文献で 3 つから 4 つの主要なテーマについて記述されていた。それらのうち、4 つの文献に共通するテーマは、「性教育」、「プライバシーや社会的規範」についてであった。

「性教育」について、保護者は、子どもの実態や現実的な課題に応じた段階的な内容の教育を求めている。しかし、それらを実現するための、機会や資源の不足や、保護者自身が性教育を学ぶ場所の不足を述べていた。また、性教育を保護者が家庭で行うことの抵抗感や、文化的な背景からくる難しさ、なかでも自慰行為について教えることへの抵抗感や難しさを述べていた。

さらに、ID を伴う ASD をもつ人の特性に応じた社会性やコミュニケーションに関する性教育、具体的には、性的同意の理解や、性に関する意思表示や意思決定について教えることの困難さがあげられていた。

「プライバシーや社会的規範」について、保護者は、自慰行為や着脱衣の際や排泄時に人目を気にしないこと、また、他者のプライバシーの尊重ができないことなど、プライバシーに関するマナーやルールが定着しないことについて困難を感じていた。また、公共の場で、本人は性的な行動と意図せず行ったとしても、社

会的な規範に触れる恐れについて懸念を述べていた。さらに、性的行動の頻度や回数が増えることで、社会資源などの利用が制限されてしまうことに不安を抱いていた。

4 つのうち 2 つの文献<sup>32, 33)</sup>に共通するテーマは、「性的虐待」についてであった。保護者は、プライバシーに関わるケアの支援について他者への依存が高いほど性的被害にあう可能性が高いと考えていた。また、子どもが自分の意思や苦痛を適切に言葉などで表出することができないことにより、それらの被害が潜在化してしまう懸念を述べていた。子どもの尊厳を守るためにも、思春期以降に特に必要になってくる身体のケアについて、保護者はプライバシーに関わるケアを優先させて身につけようとさせていた。例えば、デオドラントや皮脂のケアなど美容や身だしなみに関わるケアよりも、月経や自慰行為の手当などを、身につけるべきケアと考えていた。

個別のテーマについては、本人の性的行動による家族への影響、とくに幼いきょうだいへの影響や、保護者なき後の ASD をもつ人の生活について懸念したものがみられた。家族への影響を懸念した結果、人目を気にしない自慰行為を、幼いきょうだいや家族の目に触れる場所で行わないよう子どもの行動を制限しようとするケースや、障害のある子どもの生活の拠点を家庭から福祉の場に移行していくケースも見られた。保護者なき後の ID と ASD をもつ子どもの生活についての懸念としては、スキンシップを伴う子どもの独特な愛情や愛着の表現が周囲から性的逸脱行動と誤解されやすいこと、その一方で、子どもの情緒の安定にはスキンシップが不可欠であることを述べつつ、保護者なき後に誰がそれを保障してくれるのかと、保護者が葛藤や不安を抱えるケースも見られた。これらの保護者の経験は、個別性が高く支援に関しても個に応じた対応を求めている。

保護者の感情には、子どもが思春期を迎えたことを成長の節目とした喜びもあれば、性の目覚めに対する負担感もあり、子どもの ID の程度や ASD の中核症状や周辺症状の程度、支援者同士のコミュニケーションや連携が、保護者の経験に影響を与える要因としてあげられていた。

### Ⅳ. 考 察

ID と ASD をもつ子どもの思春期のセクシュアリ



表1 子どもの思春期の性にかかわる保護者の経験に関する研究概要

|         | 著者<br>(出版年)<br>国名                    | 研究目的<br>(親の経験<br>に関連する<br>部分を抜<br>粋)                                                  | 研究対象者                                                                                             |                                                                                                                     | 研究方法                                                                                                    |                           | 研究の質                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 保護者の経験の概要                                  |  |
|---------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|--|
|         |                                      |                                                                                       | ①子どもの障害<br>②人数：家族の続柄・<br>人数<br>年代(記載がある場合)                                                        | ③子どもの年<br>齢と性別<br>④リクルート<br>経路                                                                                      | ①研究デザイン<br>②データ収集<br>方法<br>③分析の方法                                                                       | CASP<br>チェック<br>シート<br>評価 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ①経験の内容(項目別)<br>②経験に影響を与える要因<br>(記載がある場合のみ) |  |
| 文献<br>1 | 菊池春樹,<br>他<br>(2011)<br>日本           | ASDをもつ<br>子どもの思<br>春期におけ<br>る性的行動<br>を尺度を用<br>いて、保護<br>者が評価を<br>し、その特<br>徴を明らか<br>にする | ① ASD のみをもつ子<br>ども 5 人<br>ASD と ID をもつ<br>子ども 35 人<br>ID の程度は境界か<br>ら最重度<br>② 40(母親 39:父親 1)<br>人 | ③ 9-18 歳の子<br>ども(男児)<br>④特別支援学<br>校に通学し<br>ている子ど<br>も                                                               | ①量的研究<br>②「ASD用性的<br>行動チェック<br>リスト」を用<br>い、質問紙調<br>査を実施<br>③ ASD 群、定<br>型発達群、ID<br>のみ群で比<br>較、多変量<br>解析 | 良好                        | ① 4 項目<br>1) 性教育<br>・衛生管理の定着の困難さ<br>・相手との同意についての教育の困難さ<br>・性教育の機会や資源の不足<br>・性教育から実生活への応用の困難さ<br>2) 性的な行動<br>・公共の場での、自慰行為への懸念<br>・幼児への関心をもつことへの懸念<br>3) プライバシーや社会的規範<br>・人目を気にしない着脱衣や入浴、排泄への<br>懸念<br>・他者のプライバシー尊重に関する懸念<br>4) 性の目覚めへの認識<br>・成長の喜びよりも、やっかいなことと認識<br>②子どもの知的障害の程度                  |                                            |  |
| 文献<br>2 | Pryde,<br>et al(2018)<br>イギリス        | 息子の性的<br>ニーズに関<br>する保護者<br>の経験と視<br>点を明らか<br>にする                                      | ① ASD と ID をもつ男<br>児および男性<br>ID の程度は中等度<br>から重度<br>② 5 (母親 5) 人                                   | ③ 16-24 歳 の<br>男性<br>④ボランティ<br>ア組織およ<br>び ASD の<br>若者のため<br>の学校                                                     | ①質的研究<br>②インタビュー<br>③テーマ別分析                                                                             | 良好                        | ① 4 項目<br>1) 保護者の経験の個別性とニーズ<br>・認知機能と性成熟の不一致への負担<br>・二極化した見解(穏やかな思春期、家族の<br>負担感)<br>・幼いきょうだいへの影響の懸念<br>・利用できる場や社会資源の制限<br>2) 性教育<br>・性教育提供のジレンマ<br>・家庭での性教育への抵抗感、文化的障壁<br>・自慰行為に関する性教育への抵抗感<br>3) 性的虐待<br>・子どもの加害、被害への懸念<br>・同意の理解と言語表出の難しさ<br>4) 未来の愛・他者との親密な関係への諦め・<br>保護者なき後の子どもの生活への懸念       |                                            |  |
| 文献<br>3 | 河本昌也,<br>他<br>(2019)<br>日本           | ASDをもつ<br>人の保護者<br>の養育での<br>性的悩みの<br>実態を明ら<br>かにする<br>教育・福祉<br>における支<br>援を見出す         | ① ASD のみをもつ 22<br>人<br>ASD と ID をもつ<br>47 人<br>② 69(母親 65:父親 4)<br>人                              | ③ 7-40 歳の 69<br>(男性 64:<br>女性 5) 人<br>④ X と Y 県<br>の自閉症協会<br>より調査書<br>配布<br>質問紙調<br>査の協力を<br>得られた人<br>にインタビュー<br>調査 | ①量的調査と質<br>的研究の混<br>合<br>②質問紙調査と<br>インタビュー<br>③テーマ別分析                                                   | 良好                        | ① 3 項目<br>1) 性的な行動<br>・公共の場での自慰行為への懸念<br>・不適切な身体的接近や接触への懸念<br>2) コミュニケーションや社会的規範<br>・公共の場で卑猥語など不適切な言葉を発す<br>る行為への懸念<br>・攻撃的なコミュニケーションへの懸念<br>3) 性教育<br>・性教育の機会や資源の不足<br>・保護者が性教育を学ぶ機会を要望<br>②家庭と社会的資源の連携                                                                                         |                                            |  |
| 文献<br>4 | Cummins,<br>et al.<br>(2020)<br>イギリス | 思春期の娘<br>に関する保<br>護者の経験<br>を明らかに<br>する                                                | ①ミニマムな言語能<br>力をもつ ASD の女<br>児<br>② 10 (母親 9:父親 1)<br>人                                            | ③ 11 - 19 歳で<br>特別支援<br>学校に通う<br>女性<br>④在学中の学<br>校                                                                  | ①質的研究<br>②インタビュー<br>③テーマ別分析                                                                             | 良好                        | ① 3 項目<br>1) 保護者の経験の個別性とニーズ<br>・月経の手当のスキル獲得<br>・言語能力など学習面の飛躍<br>・月経関連症状への手当<br>2) 子どもの尊厳の尊重<br>・美容など他のケアより優先される月経ケア<br>・容認される自慰<br>・性的虐待のおそれがあるケア依存度の高さ<br>3) 性教育<br>・性教育での段階的なステップによる現実的<br>なゴール<br>・子どもの尊厳を侵害しないサポート<br>② 2 項目<br>1) 子どもの言語表出の難しさ<br>・月経時の苦痛などの表出の困難さ<br>2) 支援者同士のコミュニケーションや連携 |                                            |  |

ティに関する保護者の養育経験の特徴には、「性教育」、「プライバシーと社会規範」、「性的虐待」という3つの主要なテーマが見出された。いずれも経験の個性が高く保護者は個々のニーズに見合った支援を求めている。また、子どもが思春期に順応するにつれて、保護者は子育ての不安を軽減させることができ、そのことが子どもの自立心を育むことに役立つ可能性が見出された。

「性教育」は、すべての文献に共通するテーマであった。「性教育」に関する保護者の経験については、子どもの成長のタイミングや個性、家庭の状況に応じた性教育を保護者は望んでいた。それらが適切に考慮されていない場合に、性教育が子どもの行動に悪影響を及ぼすことの懸念や、子どもを支援するための教育資源の不足に対する不満などが生じていた。IDをもつ思春期の子どもの性教育に関わる教育職や福祉職の経験においても、子どもの個々の状況に適した性教育の困難さや教育資源の不足について指摘されており<sup>37, 38)</sup>、障害をもつ子どもへの性教育において、子どもに関わる支援者と家庭の連携が必要であることを示している。

また、「プライバシーや社会的規範」もすべての文献に共通するテーマであった。IDとASDをもつ子どもが社会的に逸脱した性的行動や興味関心を発達させ、そのことで社会的規範に触れる恐れが生じる場合、保護者は困難を感じていた。プライバシーや社会規範に関する課題は、IDとASDをもつ人の社会的なスキルの欠如や、強いこだわり、感覚過敏あるいは鈍麻、反復行動などのASDの中核症状に加えて、いじめに起因する外傷体験、養育環境、誤った学習などの心理・社会的な要因が密接に関連している場合が多く<sup>15)</sup>、より複雑であり、個性が高い。

なお、ASDをもつ人の性的な逸脱行動には、性的な知識の不足や社会的な対人相互作用の問題が背景にあることもある。これは“見かけ上の性的逸脱行動”と言われており、ASDをもつ人の性的な逸脱行動をパラフィリアとASD特性に基づく問題とに分けて検討することによって、個々の事例に応じた治療法や支援策を選択することが可能となる<sup>39)</sup>。

本レビューでは、保護者の不安や懸念が、子どもの思春期への適応によって軽減されることも見出した。子どもが適応する要因のひとつは、ASDをもつ子どもの個性や事例に合った支援策や知的障害の程度に応じた教育である。なかでも、月経ケアの習得により保

護者の不安が軽減していく過程は、伊織らのダウン症の子どもを対象とした初経教育にまつわる保護者の経験に関する研究結果<sup>40)</sup>とも一致しており、多くのIDをもつ子どもにとって、子どもの個性や発達段階に応じた月経ケアの習得とそれを促す保護者への支援や教育資源の提供が、保護者の不安を軽減すると推察した。

さらに、保護者は、障害をもつ子どもに潜む「性的虐待」を受けるリスクを懸念していることが、2本の文献に共通して見出された。IDやASDをもつ人の性的な被虐待のリスクの高さについては、先行研究が報告している<sup>4, 41, 42)</sup>。月経ケアや自慰行為に関するケアなどプライバシーに配慮が必要なケアについて、他者への依存が高くなるほど性的虐待を受けるリスクが高くなると保護者は考えており、優先的に子どもが身につけるべきスキルであると捉えていた。思春期への適応、特に子どもの思春期にまつわるケアの自立が進むと、性被害を受けることへの保護者の懸念は軽減していた。

今回のレビューの限界として、対象とした4論文は、近年のイギリスと日本の論文であり、その他の国の状況をふまえた検討ができなかった。IDとASDをもつ子どもをとりまく性的な課題の社会的な背景やその歴史的な変遷についても検討が十分であるとはいえない。性に関するマナーや考え方、性教育の歴史的な変遷は日本と他国では異なるため<sup>43)</sup>、保護者の養育体験や子どもの思春期の性の実態を理解するには、それらの文化的、歴史的な背景をふまえて検討を重ねる必要がある。

また、個人の視点では、子どもの個性や特性、生育歴や目の前の生活と結びつけて、その保護者あるいは養育者がどのように対応してきたのかという、成長と養育のプロセスについての検討はできていない。今後は、日本のIDとASDをもつ子どもの保護者へのインタビューや教育現場における相談記録の分析などを通して、子どもの思春期の性に関する保護者の経験を明らかにすることが望まれる。

## V. 結 論

IDとASDをもつ子どもの養育経験の特徴として、「性教育」、「プライバシーと社会規範」、「性的虐待」という主要なテーマを見出した。保護者の支援に関して、すべての子どもにあてはまる包括的な支援は見出しにくく、子どもの成長や発達に伴う養育経験の変化も考慮する必要がある。また、子どもが思春期を迎え身辺

自立のスキルを獲得し、さまざまな変化に適応すると保護者の不安も軽減されることから、子どもの個性と成長に着目し、自立性を促す支援を充実させることが大切である。

#### 〔学会発表・研究費助成等・利益相反〕

本論文における学会発表、研究費助成、開示すべき利益相反はない。

#### 文 献

- 1) Loomes R, Hull L, Mandy WPL. What is the male-to-female ratio in autism spectrum disorder? a systematic review and meta-analysis. *J Am Acad Child Adolesc Psychiatry* 2017; 56: 466-474.
- 2) Weintraub K. The prevalence puzzle: autism counts. *Nature* 2011; 479: 22-24.
- 3) 厚生労働省. “eヘルスネット. ASD (自閉スペクトラム症, アスペルガー症候群) について”. <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/heart/k-03-005.html> (参照 2023.09.30)
- 4) Mandell DS, Walrath CM, Manteuffel B, et al. The prevalence and correlates of abuse among children with autism served in comprehensive community-based mental health settings. *Child Abuse Negl* 2005; 29: 1359-1372.
- 5) 染谷莉奈子. 母親が経験する知的障害者の「自立生活」: 支援者とのやりとりの間にみられる解釈の相違. *福祉社会学研究* 2023; 195-213.
- 6) Kawamura Y, Takahashi O, Ishii T. Reevaluating the incidence of pervasive developmental disorders: impact of elevated rates of detection through implementation of an integrated system of screening in Toyota, Japan. *Psychiatry Clin Neurosci* 2008; 62: 152-159.
- 7) 市川宏伸. 経験からみた強度行動障害について発達障害の2次・3次障害. *小児の精神と神経* 2021; 61: 203-213.
- 8) 高橋恵美子, 谷口敏代, 山下一也. 学童期の発達障害児を養育する母親の困難に関する文献検討. *日本医学看護学教育学会誌* 2020; 42-51.
- 9) Farley JP, Kim-Spoon J. The development of adolescent self-regulation: reviewing the role of parent, peer, friend, and romantic relationships. *J Adolesc* 2014; 37: 433-440.
- 10) Maggio MG, Calatozzo P, Cerasa A, et al. Sex and sexuality in autism spectrum disorders: a scoping review on a neglected but fundamental issue. *Brain Sci* 2022; 12.
- 11) Hellemans H, Colson K, Verbraeken C, et al. Sexual behavior in high-functioning male adolescents and young adults with autism spectrum disorder. *J Autism Dev Disord* 2007; 37: 260-269.
- 12) Fernandes LC, Gillberg CI, Cederlund M, et al. Aspects of sexuality in adolescents and adults diagnosed with autism spectrum disorders in childhood. *J Autism Dev Disord* 2016; 46: 3155-3165.
- 13) Dewinter J, De Graaf H, Begeer S. Sexual orientation, gender identity, and romantic relationships in adolescents and adults with autism spectrum disorder. *J Autism Dev Disord* 2017; 47: 2927-2934.
- 14) 幸 順子, 竹澤大史. 発達障害児の地域における育児支援に関する研究 乳幼児期から思春期に至る親のピア・グループサポートの歩みから. *名古屋女子大学紀要 (家政・自然編, 人文・社会編)* 2018; 419-427.
- 15) 早川徳香. 自閉スペクトラム症における sexuality と性的逸脱行動. *日本性科学会雑誌* 2019; 37: 25-34.
- 16) Realmuto GM, Ruble LA. Sexual behaviors in autism: problems of definition and management. *J Autism Dev Disord* 1999; 29: 121-127.
- 17) Beddows N, Brooks R. Inappropriate sexual behaviour in adolescents with autism spectrum disorder: what education is recommended and why. *Early Interv Psychiatry* 2016; 10: 282-289.
- 18) Holmes GL, Shattuck PT, Nilssen AR, et al. Sexual and reproductive health service utilization and sexuality for teens on the autism spectrum. *J Dev Behav Pediatr* 2020; 41: 667-679.
- 19) Holmes GL, Strassberg DS, Himle MB. Family sexuality communication for adolescent girls on the autism spectrum. *J Autism Dev Disord* 2019; 49: 2403-2416.
- 20) Pugliese CE, Ratto AB, Granader Y, et al. Feasibility and preliminary efficacy of a parent-mediated sexual education curriculum for youth with autism spectrum disorders. *Autism* 2020; 24: 64-79.
- 21) Masoudi M, Maasoumi R, Effatpanah M, et al.

- Exploring experiences of psychological distress among Iranian parents in dealing with the sexual behaviors of their children with autism spectrum disorder: a qualitative study. *J Med Life* 2022; 15: 26-33.
- 22) 大久保賢一, 井上雅彦, 渡辺郁博. 自閉症児・者の性教育に対する保護者のニーズに関する調査研究. *特殊教育学研究* 2008; 46: 29-38.
- 23) 川上ちひろ, 辻井正次. 思春期広汎性発達障害男児への性教育プログラムの検討 試行的実践からの分析. *小児保健研究* 2011; 70: 402-411.
- 24) 川上克樹, 夏苺英俊, 村松幹之, 他. 福祉型障害児入所施設(知的障害児)における性的問題予防のための現状調査. *神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要* 2022; 23-27.
- 25) 三島利江子, 長谷川博一. 性的サディズムの維持要因 自閉症スペクトラム障害が疑われる男性の事例. *犯罪心理学研究* 2012; 49: 24-25.
- 26) 文部科学省 初等中等教育局健康教育・食育課. “学校における性に関する指導および関連する取組の状況について”. <https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000910047.pdf> (参照 2024.10.03)
- 27) 東京都教育委員会. “性教育の手引き”. [https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2019/03/28/documents/22\\_01.pdf](https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2019/03/28/documents/22_01.pdf) (参照 2023.12.04)
- 28) Khan KS, Kunz R, Kleijnen J, et al. Five steps to conducting a systematic review. *J R Soc Med* 2003; 96: 118-121.
- 29) Pope C, Mays N. *Qualitative Research in Health Care* Fourth Edition. USA: John Wiley & Sons Ltd, 2020; pp 157-158.
- 30) World Health Organization. “Adolescent health”. [https://www.who.int/health-topics/adolescent-health/#tab=tab\\_1](https://www.who.int/health-topics/adolescent-health/#tab=tab_1) (accessed 2024.01.26)
- 31) World Health Organization. “Sexual and reproductive health and research”. <https://www.who.int/teams/sexual-and-reproductive-health-and-research/key-areas-of-work/sexual-health/defining-sexual-health> (accessed 2024.01.24)
- 32) Cummins C, Pellicano E, Crane L. Supporting minimally verbal autistic girls with Intellectual disabilities through puberty: perspectives of parents and educators. *J Autism Dev Disord* 2020; 50: 2439-2448.
- 33) Pryde R, Jahoda A. A qualitative study of mothers' experiences of supporting the sexual development of their sons with autism and an accompanying intellectual disability. *International Journal of Developmental Disabilities* 2018; 64: 166-174.
- 34) 河本昌也, 立松英子. 自閉スペクトラム症における性の問題 保護者の悩みと支援についての考察. *東京福祉大学・大学院紀要* 2019; 9: 77-85.
- 35) 菊池春樹, 森田展彰, 田上洋子. 自閉症スペクトラム障害の思春期における性的な行動に関するアセスメントツールの作成. *児童青年精神医学とその近接領域* 2011; 52: 1-20.
- 36) CASP Checklists - Critical Appraisal Skills Programme 2024.
- 37) 延原稚枝, 名川 勝, 門下祐子, 他. 知的障害のある人の性と生殖に関する健康と権利—介入機会としての性交・子育て—. *発達障害研究* 2022; 44: 54-56.
- 38) 北村亜希子. 特別支援学校における知的障がい児への性に関する教育の現状と問題点. *山陽論叢* 2023; 29: 107-121.
- 39) Williams PG, Allard AM, Sears L. Case study: cross-gender preoccupations with two male children with autism. *J Autism Dev Disord* 1996; 26: 635-642.
- 40) 伊織光恵, 今野美紀. ダウン症候群の娘をもつ母親が想定する初経教育とそれに伴う不安や悩み. *小児保健研究* 2022; 81: 118-126.
- 41) Haydon AA, McRee AL, Tucker HC. Unwanted sex among young adults in the United States: the role of physical disability and cognitive performance. *Journal of Interpersonal Violence* 2011; 26: 3476-3493.
- 42) Christoffersen MN. Sexual crime against schoolchildren with disabilities: a nationwide prospective birth cohort study. *J Interpers Violence* 2022; 37: Np2177-Np2205.
- 43) 橋本紀子. ジェンダー・セクシュアリティと教育—海外の性教育関連教科書から日本の性教育を見直す—. *女子栄養大学紀要* 2015; 46: 27-39.



**[Summary]**

In Japan, sexual health and well-being related to parenting of adolescents with disabilities remains a significant public health challenge. Understanding the parental experiences and providing appropriate support is essential to prevent adverse health outcomes in adolescents. Therefore, this study presented a narrative review of parental experiences related to the sexuality of adolescents with intellectual disabilities and autism spectrum disorder to identify challenges and provide recommendations. Evidence on the parental experiences was collected from the electronic databases of PubMed, CiNii, Web of Science, and the Cumulative Index of Nursing and Allied Health Literature. The literature search identified four papers that included three key themes: “sex education,” “privacy and social norms,” and “sexual abuse.” The parental experiences related to those themes were highly individualized, and the parents sought support tailored to their individual needs. The study found that the parents experienced reduced anxiety as their children adapted to adolescence, which can consequently help the adolescents develop self-reliance. However, the findings of this review show that it is difficult to find parental support that would apply comprehensively to all children and that parenting experiences change as children grow and develop.

**Key words:** intellectual disability, autism spectrum disorder, adolescent, sexuality, parents